

令和元年度 「東京大学医科学研究所」訪問

- 実施日 令和元年9月5日（木）
- 訪問先 東京大学医科学研究所（東京都港区白金台）
- 参加生徒 7名（1年1名・2年6名）

9月5日（木）、生徒7名（1年1名、2年6名）は東京大学医科学研究所を訪問しました。事前に質問事項を含む400字のレポートを提出してから、準備万端の状態で出発しました。

敷地内の施設である「近代医科学記念館」では、前身の伝染病研究所から現在に至る歴史や、そこに携わった方々を紹介する展示を拝見しました。研究室訪問は「幹細胞治療部門」ということで、難病治療に対する安全で有効な治療法確立のために取り組んおられる内容の説明や、実際の研究の様子を間近に見せていただきました。

約3時間ほどの短い滞在でしたが、たいへん有意義な経験をさせていただきました。ありがとうございました。今後、参加した生徒は再びレポートを作成し、提出することになります。そこまでしっかりとやり切ってくれるものと確信しています。

以下に参加した高校生の報告を掲載します。

- 今の時代に大切なのは、ルーティンワークは機械に任せて、研究者・医者など日々異なる状況に対面する仕事を人間が行うことである。ということを感じ銘を受けました。自分ももっと創造的な思考ができるように日々考えていきたいです。
- 研究はなんかやりたくないというイメージだったが、今回の訪問で、素晴らしくやってみたい気持ちになれた。進路の視野が広がってよかった。
- 今の自分には到底無理なことをしている。自分の好きなことを追求していくことが重要だと改めて感じました。
- 細胞やラット、研究している様子、細胞に移植しているのを実際に見て『あ、こんな研究してるんだ！』ってすごく理解できた。また、研究者の方々も楽しそうに研究しており、生涯自分の興味のあることに没頭して研究する人生もいいなと思った。
- 自分が好きで興味のある分野についての研究を実際に見ることができてよかったです。また、今の先端的な研究を深く知ることができ、とても楽しかったです。



○ 自分がニュースで見た内容の研究を行っているのが，今回訪問した研究所の方々に驚いた。想像していたよりとても難しい内容だったけど，研究がこのまま進んで成功したら今の世界に役に立つとても素晴らしいものだと思った。今回この東大医科学研究所訪問に参加できて本当に良かったと思う。

(Q) 今回の事業は，あなたにとって有意義なものとなりましたか。

◇ 大いに有意義であった … 6 人 (85.7%)

◇ 有意義だった … 1 人 (14.3%)

◇ どちらともいえない … 0 人 (0.0%)

◇ 意義が見出せなかった … 0 人 (0.0%)
